

大阪大学図書館報

Vol. 12, No.3/4 November 1978

目 次

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| ○チェーホフの魅力——〈不確実性〉の先取り—— | ○教官著作寄贈図書 |
| ○名誉教授に閲覧証を発行 | ○本館受入参考図書 |
| ○吹田分館オンライン情報検索サービス開始 | ○職員研修講演会の開催 |
| ○自然科学系研究者のための学術雑誌閲覧室の活用を！ | ○昭和53年度大学図書館職員長期研修を終えて |
| ○図書館委員会委員名簿 | ○会 議 |
| | ○日 程 |
| | ○人 事 |

チェーホフの魅力——〈不確実性〉の先取り——

佐藤清郎

言語文化部に専任・非常勤の外国人の女性教師が4、5名いるが、手前みそながらロシア語の非常勤のポーランド女性が一番美人ではないかと思う（異論があるかな？）。

先日、彼女に「ロシア作家の中で、誰が一番好きですか？」ときいてみた。すると即座に、「もちろん、チェーホフですワ！」という答えが返ってきた。彼女が力をこめて発音した、「もちろん^{カネーシナ}」という言葉が私を喜ばしたことは言うまでもない。帰宅して、妻にその話をすると、「女性はみなチェーホフが好きではないでしょうか」と言った。そういえば、昨年モスクワで、市民たちの「チェーホフ文学散歩」に飛入りで参加したときも、作家の田莊メリホヴォへ行ったときも、参加者の大半は女性であったし、モスクワ大学の女子学生の口からも、好きな作家としてチェーホフの名を耳にしたものである。それにしても、なぜ彼は女性に好まれるのか。おそらく、それはトルストイのような説教も、ドストエフスキーのような重苦しさもなく、どことなく、やさしさが彼からはただよってくるからであろう。確かにやさしさはチェーホフの大切な特徴である。だが、その裏側に容赦のない非情な眼が光っていることに人は気づいているのか。「チェーホフは自作の人物たちを軽蔑しながら、同情している」とゴーリキーは言ったが、〈軽蔑〉は少し強いが、これは的を射た指摘だと思う。チェーホフ愛好者の多くは〈同情〉の方ばかりをみて、〈軽蔑〉の方を見ないのではないかと。もっとも、彼は露わな軽蔑は見せない。笑いとリリシズムの下にそれを巧みにかくす。しかし、その煙幕の底には、きびしい人間凝視がいつもあるのである。

今日まで、チェーホフの作品のフィナーレの特異性（結論がない点）について、多くの論

がなされてきたが、これは何も彼が不可知論に立っているからではなく、深い現実認識があつてのことである。彼は現実を停止させて見ることをしない。いつも「動」において見ている。どのように賢い結論も、結局は一時期の結論でしかないこと、一切の学説も一時期の仮説でしかないことをよく知っていたからである。最近、ガルブレイの「不確実性の時代」という本が評判のようであるが、チェーホフこそ百年も前に不確実性の認識を持っていたのである。それは、一つには人民主義運動の挫折からマルクス主義勃興までの、いわば谷間の、不確実性の時代に生きていたことと関係があると思うが、また、一つには、彼の世界観とも深く結びついていたのである。一見〈確実〉と思われるものも、すべて一時期のものであり、不確実性こそ、いつの時代においても、この世の実相であることを知っていたのである。このような世界観を育てたものに、クロード・ベルナルの「実験医学序説」とマルクス・アウレリウスの「自省録」がある（両書とも岩波文庫に邦訳あり）。もちろん、生来の落ち着きと〈笑い〉の発条が彼の内部にあったことも無視できないし、生身の彼の人生経験も、そういう世界観の定着を大いに助けたことと思われる。

友人たちの多くは彼の中に自由な心の持主を見ているが、これとて冷厳な自然法則の深い認識と無関係ではない。法則を知るとは法則の主人になることであり、必然の認識こそ自由をうる道である。

最近、植村直己さんが単独で北極点に立ったが、チェーホフも中央アジアの探検家プルジェヴァルスキー讃美の名文を残しており、自身も、シベリアの悪路一万キロを踏破し、サハリンまで単独旅行を敢行している。人真似でない独自性と勇気を持っていたのである。学問の世界でも、人生の生き方の上でも、ひとのやらないことをやる勇気を持つ若者がもっと出てほしい。

チェーホフは、やさしいばかりではなかったのである。 (言語文化部教授)

名誉教授に閲覧証を発行

附属図書館では、かねてより名誉教授の先生方にも図書館を自由に利用していただくことを検討していましたが、6月1日から下図のような名誉教授閲覧証を発行することになりました。

名誉教授の方が図書館をご利用になる場合、この閲覧証を持参して下されば、本学の本館、分館、分室を利用し、また図書の館外貸出サービスを受けることができます。

今後とも附属図書館をご利用下さいますよう、お待ちしております。

なお、詳しいことは閲覧第一掛（内線2120、2121）へお尋ね下さい。

No.	
名誉教授閲覧証	
現住所	
氏名	
発行年月日	
大阪大学附属図書館	
本館	☎ 06 (856) 1151 代
中之島分館	☎ 06 (443) 5061 代
吹田分館	☎ 06 (877) 5111 代

※本学の図書館（室）をご利用の際は、この閲覧証をご提示下さい。
※この閲覧証で学内の本館、分館、分室を利用することができますが、図書の館外貸出については、各図書館（室）の規程に従って下さい。
※閲覧証を紛失した場合は、附属図書館閲覧第一掛へ届け出て下さい。
※この閲覧証は、本人以外の使用はご遠慮下さい。

吹田分館オンライン情報検索サービスの開始

中之島分館の特定回線用ビデオ端末につづき、吹田分館に公衆回線型T S S端末を設置し、10月16日(月)よりJOIS(JICST Online Information System)による情報検索サービスを開始しております。なお、吹田分館では同じ端末装置を使って、東大大型計算機センターのTOOL-IR(University of TOkyo On-Line Information Retrieval)システムによる情報検索サービスも行なっています。

以下、JOISで検索できるファイルの種類とその利用について紹介します。

1. サービス開始時期

1978年10月16日(月)

2. JOISで検索できるファイル

ファイル名	蓄積期間	情報量	分野	情報源	備考
JICST理工学 文献ファイル	1975年4月 — 現在	約36万件/年	理工学 全般	雑誌(8,500種) レポート 会議資料	JICST発行の「科学 技術文献速報」に対 応
CAC化学 文献ファイル	1974年1月 — 現在	約38万件/年	化学 化学工業	雑誌(14,000種) レポート 図書、学位論文 特許(27カ国)	米国ケミカル・アプ ストラクツ・サービ ス発行の「Chem Abst.」に対応
MEDLARS 医学文献ファイル	1974年1月 — 現在	約25万件/年	医学 薬学	雑誌(2,300種) モノグラフ	米国国立医学図書館 発行の「Index Medicus」に対応
クリアリング ファイル	1976年度 — 現在	約1.5万件/年	理工学 全般	アンケート結果	国内の公共試験研究機 関約400機関で行なっ ている研究テーマを対 象

(注)：各ファイルとも書誌の事項、キーワード、分類などを含みますが、抄録は含まれません。また、すべて英字・カナ文字で入力されています。

(「JOISオンライン情報検索サービス—公衆回線サービスのご案内—」

(JICST発行のパンフレット)より引用)

3. 各ファイルのサービス時間

	月	火	水	木	金
9:45~17:00	JICST MED CLEAR	JICST CAC CLEAR	CAC MED —	JICST MED CLEAR	JICST CAC CLEAR

(注) JICSTは、JICST理工学文献ファイル
CACは、CAC化学文献ファイル
MEDは、MEDLARS医学文献ファイル
CLEARは、クリアリングファイルを示します。

(前掲、JICST発行のパンフレットより引用)

J I C S Tでは常時2～3種類のファイルを同時にサービスしていますので、複数のファイルを使って、もれの少ない検索をおこなうことができます。

4. 料 金

(公衆回線によるJ O I S料金) + (通話料) で校費支弁の可能な場合に限りです。

1) 公衆回線によるJ O I S料金

a. 端末使用料

J I C S T・MEDLARS・クリアリングファイル 180円/分

CACファイル 205/分

(ただし、1分未満は切上げ)

b. オフライン回答料

① 手 配 料 500円/回

② 回 答 書 料

J I C S T・MEDLARS・クリアリングファイル 15円/件

CACファイル 23円/件

(オフライン回答料は、オフライン命令した場合にのみいただきます。)

2) 通 話 料

検索開始から終了までの大阪局内の電話料金(10円/3分毎)です。

5. 利用資格

本学の教職員、院生、学生等で、校費支弁の可能な方に限りです。

6. サーチおよびオペレーション

当館の担当者がおこないます。また、ご希望の方には、端末の操作の仕方およびコマンドの使い方をご指導いたします。なお、コンピューターによる検索に先立って、質問の主題分析や検索用語の選定、検索式の組立てのためのインタビューが必要ですので、カウンターでご相談下さい。

連絡および問合せ先は当館レファレンス担当(内線4084)です。

なお、TOOL-IRの利用の詳細については、各図書館、図書室に置かれています。吹田分館発行のPR誌“Library News” No.21(1978年3月)をご覧ください。また、吹田分館運用掛、(内線4084)にお問合せいただければ、詳しくご説明いたします。

自然科学系研究者のための学術雑誌閲覧室の活用を!

共通的な自然科学の学術雑誌を学内で広く活用していただくため、本館の2階の西側に「学術雑誌閲覧室」を設け、快適な環境で雑誌を閲覧していただくようにしております。ここには約60タイトルの雑誌(1978年初号より)が配架されて、皆様のご利用をお待ちしております。同じフロアで複写サービスも行っております。

これらの雑誌は、大阪大学図書館報Vol.12、No.1号でご案内しました文部省配付外国雑誌購入費のうちの第1種に該当するもので、学内で共同利用を図ることが望ましいものとして選ばれ、本館に備え付けられたものであります。研究者の皆さんの一層のご利用を期待します。

図書館委員会委員名簿 (53.10.1.現在)

図書館長	山田教授 (文)	工学部	◎三川教授	山根教授
文学部	片山教授 当津教授	基礎工学部	坂口教授	須田教授
人間科学部	西田教授 徳永教授	教養部	大塚教授	黒川教授
法学部	覚道教授 矢崎教授	微生物病研究所	松田教授	中林教授
経済学部	原田教授 渡辺教授	産業科学研究所	松屋教授	三角教授
理学部	千原教授 野桜教授	社会経済研究所	新開教授	畠中教授
医学部	北村教授 岩間教授	蛋白質研究所	成田教授	倉橋教授
医学部附属病院	小野教授 重松教授	溶接工学研究所	園城教授	岩本教授
歯学部	◎小谷教授 土谷教授	事務局	齊藤局長	
薬学部	◎佐々木教授 冨田教授	(オブザーバー)	桜井教授	曾我部教授
言語文化部	佐藤教授 吉田教授	医病技術短期大学部		
		◎印：分館長		

附属図書館豊中地区運営委員会委員名簿 (53.10.1.現在)

運営委員長	野桜教授	言語文化部	佐藤教授	吉田教授
文学部	片山教授 当津教授	薬学部	佐々木教授	冨田教授
人間科学部	茅野教授 田中教授	基礎工学部	坂口教授	須田教授
法学部	覚道教授 矢崎教授	教養部	黒川教授	大塚教授
経済学部	原田教授 渡辺教授	社会経済研究所	新開教授	久我教授
理学部	千原教授 野桜教授	(オブザーバー)	桜井教授	曾我部教授
		医病技術短期大学部		

附属図書館中之島分館運営委員会委員名簿 (53.10.1.現在)

分館長	小谷教授 (歯)	歯学部	八木教授	土谷教授
医学部	北村教授 岩間教授	微生物病研究所	森教授	中林教授
医学部附属病院	小野教授 重松教授	蛋白質研究所	成田教授	倉橋教授

附属図書館吹田地区運営委員会委員名簿 (53.10.1.現在)

分館長	三川教授 (工)	産業科学研究所	松尾教授	三角教授
工学部	山根教授 鈴木教授	溶接工学研究所	園城教授	岩本教授

附属図書館薬学部分館運営委員会委員名簿 (53.10.1.現在)

分館長	佐々木教授	委員	鎌田教授	北川教授
委員	冨田教授 近藤教授	委員	上原教授	

教官著作寄贈図書

——本館——

高田 馨 (経・教授)

経営目的論 (千倉書房 昭53)

久貴忠彦 (法・教授)

民法講義 8 相続 (有斐閣大学双書)

泉久雄、久貴忠彦等共著(有斐閣 昭53)

須田信英 (基・教授)

システム制御のためのマトリクス理論

児玉慎二、須田信英共著

(計測自動制御学会 昭53)

— 理学部分室 —

松原 央 (理・教授)

Evolution of protein molecules:
proceedings of the symposium on evo-lution of protein molecules held at
Osaka-Kobe, April 11-13, 1977. Ed.by Hiroshi Matsubara, Tateo Yamanaka.
(Japan Scientific Societies Press, 1978)

本館受入参考図書

(昭和53年7月~10月)

◇ 総 記 ◇

日本の蔵書印 小野則秋 (臨川書店)

九ヶ国語対訳書籍用語辞典 Menno

Hertzberger 編 天野敬太郎編訳 改訂版

(The antiquarian booksellers associ-
ation of Japan)

明治新聞雑誌文庫所蔵新聞目録・東京大学

法学部明治新聞雑誌文庫編(東大出版会)

「日本の参考図書」に現われた年鑑細目

国際文化会館図書室編(日本図書館協会)

辞典・事典総合目録 '77 (出版ニュース社)

世界大百科年鑑 '78 (平凡社)

マスコミ文献集大成 マスコミ一般・新聞・

放送・出版・広告文献解題目録 (東京社)

A. L. A. membership directory, 1974.

(A. L. A.)

Encyclopedia of library and informa-
tion science. Vol. 23-24. (Dekker)

American book trade directory, 1971-

72 (Bowker)

Literary market place (LMP), '74-75,

'75-76. (Bowker)

British books in print, 1977, Vol. 1-2

(Whitaker)

British union-catalogue of periodicals;
incorporating world list of scientific

periodicals. New periodical titles,

1969-1973. (Butterworths)

The encyclopedia Americana, Vol. 1-30.

1971. (Americana Corp.)

Americana annual 1978.

(Grolier Incorporated)

Britannica; Book of the year 1978.

(Encyclopaedia Britannica)

Grest Soviet encyclopedia. Vol. 15-17,

& index to vol. 1-15. (Macmillan)

The Europa year book 1978, vol. 1.

(Europa Pub.)

Ayer directory of publications, 1975.

(Ayer Pr.)

Библиография изданий Академии Наук

СССР; ежегодник Том 19. (ВАН)

Книжная летопись, 1907-1910, Том 1

-10; 1917-1922, Том 28-34 (Kraus

Reprint)

Журнальная летопись, 1926-1930.

Том 1-9 (Kraus Reprint)

Летопись периодических и продолжающ-

ихся изданий, 1978-1975, Часть 1.

(Книга)

Пеуать СССР в 1976 году: Статистический

сборник. (Статистика)

Большая советская энциклопедия, 27.

(Советская Энциклопедия)

Ўзбек Совет энциклопедияси. 9.

(Ўзбек Совет энциклопедияси бош ре-

дакцияси)

◇ 哲 学 ◇

精神分析用語辞典 J. ラプランシュ他著、

村上仁監訳 第5版 (みすず書房)

仏典解題事典 水野弘元他編 (春秋社)

◇ 歴 史 ◇

新聞記事資料集成 社会編 4巻 神戸大

学経済経営研究所編

藩史総覧 児玉幸多他監修(新人物往来社)

世界皇帝人名辞典 三浦一郎編 (東京堂)

著作権台帳 第17版 (日本著作権協議会)

- 日本紳士録 第64版 付高額所得者名鑑(交詢社)
 人事興信録 第29版 上、下(人事興信所)
 京阪神市街地図集 1978年度版(大阪人文社)
 東京都地図地名総覧 昭53年版(人文社)
 日本分県地図地名総覧 昭53年版(人文社)
 日本地誌 第17巻 日本地誌研究所編(二宮書店)
 Dizionario biografico degli Italiani.
 Tom 20. (Enciclopedia Italiana)
 ◇ 社会科学 ◇
 世界政治経済史年表 2集 中瀬寿一編著(国際出版社)
 大阪市地番地図 新住居表示・旧町名対照
 (大阪人文社)
 大阪府都市計画地図集 昭53年版()
 対外交渉史文献目録:近世編 京都外国語
 大学附属図書館編 (雄松堂)
 英米法研究文献目録 田中英夫他編(東大出版会)
 経済英語例文活用辞典 寺沢浩二編
 (日本経済新聞社)
 婦人問題法令ハンドブック 山口真他編
 (ぎょうせい)
 六法全書 昭53年版 (有斐閣)
 岩波六法全書 昭53年版 (岩波)
 統計情報総索引 増補 昭53年版 総理府
 統計局編 (総理府統計局)
 本邦大学・高等教育機関沿革史目録 中村博男編
 身体障害事典 小池文英他編(岩崎学術出版社)
 知能障害事典 齊藤義夫他編 ()
 日本昔話事典 稲田浩二他編 (弘文堂)
 Reference books in the social sciences
 and humanities, 3rd ed. By R. E.
 Stevens. (Illinois Union Bookstore)
 Worldmark encyclopedia of the nations.
 Vol. 1-5. Ed. by M. Y. Sachs.
 (Worldmark)
 Government documents on microfilm,
 1973. (Xerox Univ. Microfilms)
 Who's who in American politics, 4th.
 ed. (Bowker)
 Yearbook of the United Nations, 1971.
 (United Nations)
 Treaties in force; a list of treaties and
 other international agreements of the
 United States in force on January 1,
 1974. (Govt. Print. Off.)
 Who's who in finance and industry,
 1972-73. (Marquis who's who)
 Guide to American directories; a guide
 to the major business directories of
 the U. S., 8th ed. (Klein)
 World of learning, 1977-78, vol. 1-2.
 (Europa Pub.)
 Education directory; education associa-
 tions (1971-72), higher education (1973
 -74), education associations (1974)
 (Govt. Print. off.)
 NAFSA directory, 1972. (National
 Association for Foreign Student Aff-
 airs)
 El-Hi Textbooks in print, 1975.
 (Bowker)

図書館職員研修講演会の開催

この研修講演会は、現在の学界の趨勢や社会問題の現状など、広い教養を得るための図書館職員を対象とした研修講演会である。

そのまず第1回として、山田館長の講演会が、去る8月25日(金)16:00より本館視聴覚室で館員多数を集めて行われた。内容は、東洋史学界の動向、とくに「アルタイ学」をめぐる諸問題で、興味深いスライドによる説明が入って、中央ユーラシア、モンゴル、イラクなどの生活様相を紹介され、出席者一同歴史への理解を高めた。また、第2回講演会は脇田助教授(文)による「部落問題研究の現状」と題する講演が9月16日(土)13:30より視聴覚室で行わ

れ、歴史的な視座をふまえた部落問題の現状が紹介され、盛会裡に終わった。

なお、第3回は12月16日(土)千原教授(理)により、わが国学術情報流通に関する講演会が予定されている。

昭和53年度 大学図書館職員長期研修を終えて

今年の長期研修は、図書館短大が会場で、8月7日～9月2日までの4週間であった。参加者は、北は北海道旭川医大から南は鹿児島大まで合計39名で、男性26名女性13名、うち国立大33名公立大1名私立大5名であった。研修内容は、大別すると1)大学図書館の管理運営 2)情報管理とコンピュータ 3)書誌調整とMARC 4)参考業務の実際の4つであった。そして見学は、昨年と同じように東工大、日本電々公社、国文学研究資料館、東京学芸大、JICST、国立国会図書館などであった。研修の後半には、「国立赤城青年の家」で2泊3日の合宿があり、緑に包まれた赤城山でフィールド アスレティックなどもやり、楽しい合宿生活を送った。

研修全体を通して感じたことは、学術情報流通体制の確立と大学図書館の役割についてが大きな柱であったように思う。講義内容で強く印象に残っていることは「大学における学術資料の多くが図書館にある。従って教育、研究を行なっていくうえで、この図書館にある資料をいかにすれば効率的に、かつ早く利用出来るかというのが、学者、研究者にとって一番の関心事である。そのためには、図書館の近代的管理運営が必要であり、機械化、合理化がもっとなされなければならない」という主張である。昭和48年に出された学術審議会第3次答申(以下「答申」という)では、「膨大な学術情報のうち必要なものを選択し、蓄積し、あるいは利用に供するため効果的なシステムの確立が必要である」と述べ、その基本的施策として「学術情報の流通体制の改善」について、幾つかの提案がなされている。これらの考えは基本的には、研修での多くの講師の主張するところと同じであった。

研修では、二次資料のデータベースの利用について実際行われている機関の例が紹介された。例えば、1)筑波大学学術情報処理センターでのERIC、BIOSIS 2)東大情報図書館学研究センターのTOOL-IR 3)広大附属図書館のHUNDRED 4)JICSTのJOISなどである。これらの機関は、二次資料のデータベースを外国から磁気テープで購入し、国内で編集しなおして、ON-LineでUSERに提供するサービスを実験的又は、実用化することに成功している。このようなシステムの開発により、次に検索された一次文献へのアプローチが必要になってくる。その要求を満すために、一次資料の効率的な収集、つまり、大学レベル、地域レベル、国レベルの相互の資料の分担、協力のネットワークシステムの確立が必要である。その1つの具体例が文部省より予算配分のあった外国雑誌購入費による、主題別全国拠点大学分担収集方式である。前述した二次資料データベースの利用が「答申」でいう第2図書館システムであり、後述の一次資料の分担収集が第1図書館システムの実施例である。このように考えてみると、国や文部省は、長期的な展望をもち、着実にしかも系統的に学術情報の流通体制の改善を推し進めているように思う。

そして学者、研究者にとっては、このようなサービスとシステムは、正に喜ばしいことであろう。しかし、それでは厳しい受験競争に打ち勝ち、最高の学問を探究することを求めて大学へ入ってきた学生たちに対して、大学図書館はどのような役割を果たさなければならない

いか、将来、学者の卵である学生の利用を高めるために、私たち図書館員が今何をしなければならないが、自然科学系はいいが人文・社会科学系の学者、研究者に対して一体どのような学術情報の提供を文部省は考えているのか、というような問題については、研修では何も語られなかった。

このような基本的な問題を解決する方向こそ、もっと重視されなければならないのではあるまいか、ともあれ図書館短大が昇格して4年制の図書館大学に、筑波で昭和54年10月より開校される予定である。多くの問題をもつ大学図書館がより発展するためには、教官、学生、図書館員が一体となって問題解決に当るシステムこそ確立されなければならないと思う。

最後に研修に参加して一番よかったことは、全国39名の同じ図書館で働く仲間と親しくなったことである。私たち第10期研修生の人的ネットワークが将来、全国の利用者サービスを一層より良いものにするために大いに役立つであろうことを信じている。

(中之島分館目録掛長 茂幾周治)

会 議

—分館長会議—

53. 7. 10 (月) 14:00~17:00 於 館長室

1. 昭和54年度新規概算要求について
資料に基づいて各事項別に説明があり、新規概算要求では、職員の増員要求を重点に考えていきたい等の発言があつて、質疑応答ののち了承された。
2. 昭和53年度予算配分について
事業費配分額の内訳表に基づいて各事項別に説明があり、学生関係図書購入費の割当について補足説明が行われ、質疑応答ののち原案が承認された。

—図書館委員会—

53. 7. 21 (金) 14:00~16:30 於 本館会議室

1. 昭和54年度新規概算要求について
諸事項説明の後、館長からも補足説明があり、職員の増員要求を中心にした概算要求が了承された。
2. 昭和53年度予算配分について
附属図書館予算配分要領の説明の後、各項目別に説明があり、昭和53年度学生関係図書購入費割当表及び基本参考図書購入費配分内訳表を含めて質疑応答があり、原案通り承認された。
3. 本館書庫の増築について
増築書庫の設計図について説明があり、書庫の一部に電動書架を設けることも考えていること、増築書庫の収容可能冊数は約34万5千冊であること等の説明があつて、質疑応答のあと原案が了承され、昭和54年度新規概算要求に出すこととなった。

—分館長会議—

53. 9. 27 (水) 15:00~17:00 於 館長室

1. 昭和53年度及び54年度における外国図書の収書計画について
外国図書で500万円以上の大型図書で今後購入したい希望はどれくらいあるかという文部

省からの照会があった。附属図書館では、これを受けて、各部局に、購入希望の調査を依頼したが、その集計結果が報告された。館側より、特に大学全体として是非必要なものがあれば加えて報告したいので検討してほしい旨要請が行われた。種々検討の結果、一部重複図書等の調整を行い、各部局の収書計画通り了承された。

目 程

- 53. 6. 14~15. 第25回国立大学図書館協議会総会 (筑波大学大学会館)
- 53. 7. 10. 分館長会議 (館長室)
- 53. 7. 11. 近畿地区国公立大学図書館協議会 53年度第1回企画委員会 (中之島分館会議室)
- 53. 7. 12. 国立大学図書館協議会 53年度第1回常務理事会 (東京大学附属図書館)
- 53. 7. 21. 図書館委員会 (本館会議室)
- 53. 9. 26. 近畿地区国公立大学図書館協議会 53年度第1回図書館業務の機械化に関する委員会 (中之島分館会議室)
- 53. 9. 27. 分館長会議 (館長室)
- 53. 9. 29. 近畿地区国公立大学図書館協議会 第1回図書館関係文献調査委員会 (京都大学附属図書館)
- 53. 10. 11. 第11回国立七大学附属図書館部課長会議 (本館会議室)
- 53. 10. 12. 第52次国立七大学附属図書館協議会 (")

人 事

来訪者

53. 7. 13. 秦 中俊 (中国図書進口公司副經理) 外4名

職員の異動

53. 7. 1.	採 用	事務補佐員	森本寿賀子	中之島分館	目録掛
	"	辞 職	"	長嶋己貴子	" "
53. 7. 16.	"	"	酒井 照子	本館受入掛	
53. 7. 25.	採 用	"	田中かず子	"	
53. 8. 1.	"	"	梅田 栄子	本館目録掛	
53. 9. 20.	"	"	山本 陽子	中之島分館	目録掛

附属図書館事務部組織変更

昭和53年6月1日付けで本館整理課目録掛を和漢書目録掛及び洋書目録掛の二掛に分離独立した。

大阪大学図書館報 Vol.12 No.3/4 通巻52号 昭和53年11月1日発行 (隔月刊)
 発行所 大阪大学附属図書館 豊中市待兼山町1の1 (☎560) ☎ 06 (856) 1151 内線 2138